

新潟市民ノーレジ袋運動宣言

～一人ひとりが できることから～

地球温暖化やエネルギー資源の問題は年々深刻さを増し、新潟市においても平均気温の上昇が観測されています。海拔ゼロメートル地帯の多い本市は、異常気象による集中豪雨や高潮などの影響を受けやすい地域であることから、特に重大な危機に直面していると言えます。また、近年では海洋プラスチックごみが問題となり、世界的にもプラスチックの使用を抑制する動きが高まっています。

国では、このような状況を踏まえ、令和元年5月31日に「プラスチック資源循環戦略」を策定し、ワンウェイプラスチックの排出抑制などの方向性を示したほか、令和2年7月1日からは全国一律でレジ袋の有料化がスタートします。

本市においても、こうした課題解決に向けて、私たち一人ひとりがこれまでの生活スタイルを見直し、「環境にやさしい生活」を実践していくことが重要です。

マイバッグなどを持参しレジ袋をもらわないことは、私たちの日常生活の中ですぐに行える身近な取り組みです。全市にこの運動が広まれば、ごみの排出量、製造時における資源の使用量並びに温室効果ガス排出量の削減が図られ、問題解決への大きな一歩となります。

○市民は、マイバッグを利用するなどし、不要なレジ袋を辞退すること。

○事業者は、無料配布の取り止めや、環境性能が認められたレジ袋への転換などにより、レジ袋を削減する取り組みを実施すること。

○市民団体は、事業者や行政等と連携してノーレジ袋運動を広げること。

○市は、市内全地域において、市民や事業者、市民団体と連携してノーレジ袋運動を推進すること。

など、それぞれの役割と責任のもとで連携・協働してレジ袋の削減に取り組みます。

「ともに創造する持続可能な循環型都市・にいがた」を提唱する本市の良好な環境を未来へと引き継ぐために、次の取り組みを行うことをここに宣言します。

- 事業者や消費者団体等市民団体との意見交換の場を設け、連携・協力してノーレジ袋運動を積極的に推進します。
- 不要なレジ袋削減のため、3R（発生抑制・再使用・再生利用）の優先順位に従った取り組みを進め、マイバッグの持参など、環境にやさしい買い物を心がけていただくよう広く市民に呼びかけます。

令和2年6月22日

新潟市長 中原 八一